



Title	台湾華語における語順類型：目的語の認定と動詞述語文を中心に
Author(s)	中村, 真衣佳
Citation	研究論集, 25, 161 (左) -186 (左)
Issue Date	2026-01-16
DOI	https://doi.org/10.14943/rjgshhs.25.l161
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/98770
Type	departmental bulletin paper
File Information	12_rjgshhs_25_p161-186_l.pdf



台湾華語における語順類型

—— 目的語の認定と動詞述語文を中心に ——

中 村 真衣佳

要 旨

普通話と台湾華語は共に北京語を基盤とすることから、同一言語と一般にみなされている。しかし、台湾華語は、普通話と統語的に異なる特徴をもつ。本稿の目的は、台湾華語の動詞述語文の語順にはどのようなものがあるかを明らかにすることである。本稿では、台湾華語の映像作品の台詞、台湾で出版された書籍、コーパスから動詞述語文の用例を収集して動詞述語文の語順を整理し、台湾華語にみられる動詞述語文には、有標と無標の対立を示すかのような語順の類型があること、また、「有‘you’」が多くの語順に伴うことを示す。そして、台湾華語では、「有＋動詞句 (VP)」が頻繁に使用されており、普通話と異なる特徴があることを指摘する。

1. はじめに

現代標準中国語には、「普通話」と「台湾華語」がある。普通話と台湾華語は共に北京語を基盤とすることから同一言語と一般にみなされている。また、「相互理解可能性」の観点から「1つの言語（の中の2つの方言）」（加藤 2007：35）と考えられている。しかし、台湾華語は、普通話と異なる特徴をもつ。それは、標準語として制定される過程が普通話と異なることにより生じた、漢字の字体や発音表記の異なりだけではない。統語的にも独自の特徴をも持つことが指摘されている。その要因は、台湾本土語の台湾語（閩南語）の影響によると言われている。筆者が初めて中国語を学び始めた 1999 年は、日本国内においては、「台湾華語」を学ぶという選択肢が用意されていない環境だったが、近年は日本国内においても「台湾華語」という名称がタイトルに含まれている書籍が見られるようになった。数は多くはないものの、普通話との比較から台湾華語の特徴に言及している張（2021）や林・吉田（2022）もある。本稿の目的は、台湾華語の動詞述語文の語順にはどのようなものがあるかを明らかにすることである。先に述

べたように、台湾華語は普通話と同一言語であるとみなされることが多いが、台湾華語のデータをもとに動詞述語文の語順を整理することは意義があることである。さらに、データを整理することで、台湾華語独自の特徴も明らかになると考えられる。本稿では、台湾華語の映像作品の台詞、台湾で出版された書籍、コーパスから動詞述語文の用例を収集して台湾華語における動詞述語文の語順を整理する。そして、台湾華語にみられる動詞述語文には、無標と有標の対立を示すかのような語順の類型があること、また、「有‘you’」が多くの語順に伴うことを示す。さらに、台湾華語は、普通話と異なる特徴があることを指摘する。

本稿は以下の流れで議論を進める。第2節では、台湾華語の概要について述べる。第3節では、現代標準中国語の基本語順と目的語の考え方を確認したうえで、台湾華語に見られる動詞述語文のデータから語順の類型を整理する。第4節は結論である。

2. 台湾華語の概要

2-1 台湾の複雑な言語環境とその要因

台湾は複雑な言語環境下にある。この複雑な言語環境は、歴史的背景により生じたものである。台湾社会は、原住民、本省人（清朝時代の福建省や広東省にルーツを持つ人たち）、外省人（第二次世界大戦後に中国から台湾へ移住した人たち）と呼ばれる属性の人々が共存している。林・吉田（2022）によると、1995年の調査では4大族群（原住民、閩南人、客家人、外省人）の人口比率は、原住民1.7%、閩南人73.3%、客家人12%、外省人13%であるという。このデータが示すように台湾は漢族（閩南人・客家人・外省人）が多数派である（このうち、閩南人と客家人は本省人に含まれる）。このような台湾社会の漢人社会と漢人文化は、2度に渡る大規模な中国からの漢人の移住により築かれた（林・吉田2022）。

このように台湾の漢人社会・漢人文化が築かれた歴史的背景について、主に林・吉田（2022）により概観する。文献で確認できる限り、16世紀にポルトガル人の水夫が台湾島を見つけて「Ilha Formosa!（美麗島）」と叫んだことが台湾の発見である。以降「フォルモサ」は台湾の代名詞となっている。17世紀になり、台湾はオランダ・スペイン領有期に入る。1624年から1662年までオランダは南部、1626年から1642年までスペインは北部を領有し、その間、中国東南部沿岸地域から漢人が開墾のために台湾へ移住した。その後、鄭成功がオランダを打ち負かし鄭氏統治期となり、再び中国から漢人が開墾のため台湾へ移住した。この2度にわたる大規模移住により台湾に移り住んだ漢人の属性は、閩南人と客家人である。彼らは中国の出身地が異なるため使用する言語も異なり、閩南人は閩南語、客家人は客家語を話す（さらに閩南人の話す閩南語は、漳州訛りと泉州訛りに分かれる）。これにより、当時の台湾では、オーストロネシア語系の原住民と閩南語系の漢民族と客家語系の漢民族の3大族群が共存することになる。その後、台湾は清朝統治期（1683年～1895年）、日本統治期（1895年～1945年）を経て中華民国期

となる。そして、1949年に国共内戦に敗れた国民党政府が台湾へ遷ったことで、多くの中国人が中国から台湾へ移住する。この頃から、それまでに台湾に移住していた閩南人と客家人を「本省人」、1949年以降に中国から台湾へ移住した中国人を「外省人」と呼ぶようになる。この出来事は20世紀の台湾で、もともと一般名詞であった中国語の「本省人（本省出身者）」「外省人（他県出身者）」という言葉に特別な意味を持たせることとなる。「本省人」も「外省人」もどちらも漢民族だが、両者の間では話す言葉が異なる。少なくとも1945年からしばらくの間、外省人は国語である中国語を話し、台湾本省人は台湾語（閩南語）や客家語、日本語を話していた（新井2019:20）。以上のように、台湾には複雑な歴史的背景があり、その影響により言語環境も複雑である。そして近年は、東南アジアからの移住者が増加していることにより、言語環境はより複雑化する見込みである（林・吉田2022）。

2-2 台湾の現代標準中国語「台湾華語」

「中国語¹」という名称は、多義的である。言い換えると、「中国語」に相当する言語は、文脈により異なる場合がある。例えば、中国語非母語話者が外国語として「中国語」（現代標準中国語）を学ぶ場合には、どこで学ぶかによってその意味するところが異なる。一般的に日本国内、中国大陆で学習する場合は、「中国語」のことを“汉语”と言うように指導される。この“汉语”（漢語）が意味するのは、「普通話」である。一方、台湾で学ぶ場合は、「中国語」のことを“國語”と言うように指導される。この“國語”（国語）が意味するのは、「台湾華語」である。

台湾の「台湾華語」「國語」と中国の「普通話」「漢語」の違いについて確認しておこう。台湾華語と普通話は同一言語と認められながらも異なる点がある。その要因は主に2つある。1つは、両者が国民党と共産党という異なる政権下で異なる言語規範に基づき制定されたものであること、2つ目は、約30年間もの間、台湾と中国の間に自由往来がなく、台湾華語は台湾本土語と言語接触をする環境にあったことである。

1つ目の台湾華語と普通話では規範とするものが異なるという点について述べる。台湾華語の前身は、普通話が制定されるよりも前に存在する。1911年、孫文による辛亥革命で清朝が倒れた翌年の1912年に台湾華語の前身「標準国語」が中国で国民党により制定される（林・吉田2022）。一方、普通話は1949年に中華人民共和国が成立した後、1950年代に共産党により制定される（木村2017:70-72, 林・吉田2022）。

次に、2つ目の台湾華語が台湾本土語と言語接触する環境下にあったという点について述べる。台湾は1950年から1980年代末期までの約30年間、中国との自由往来が禁止されていた。

¹ 中国には政府が認定しているだけでも55の少数民族が存在し、圧倒的多数を占める漢民族言語を指して「中国語」という場合もある。漢語自体の中にも上海語や福建語、広東語などの諸方言があるが、これらは互いに通じないほど大きく異なる（風間・山田編2021:223）

そのため、言語的にも中国と相互に影響しない時期が続いたことで、台湾華語は台湾本土語（閩南語）の影響を受けて独自の変化を遂げて現在に至ると考えられる。

台湾華語と普通話で異なる点について具体例をみてみよう。先に述べたように、台湾華語と普通話とは主に2つの面で異なる。ひとつは、前身となる規範が異なることにより生じた違いである。具体的には、台湾華語においては漢字の字体は繁体字を使用し、発音表記は注音符號²を使用している。普通話では漢字の字体は簡体字、発音表記は拼音を使用している。音声に関しては、“研究”（台：yán jiù 中：yán jiū）“認識”（台：rèn shì 中：rèn shí）“垃圾”（台：lè sè 中：lā jī）“質量”（台：zhí liàng 中：zhì liàng）などが台湾華語と普通話で発音と声調に違いがある。また、慣習的に使用している語にも異なりがみられるという。例えば「自転車」を台湾華語では“腳踏車”，普通話では“自行车”と言う。台湾華語話者のインフォーマントによると、台湾で“自行车”と聞くと、競輪などで使用される自転車を想像するという。普通話話者のインフォーマントは、“腳踏車”と聞いても何のことだかわからなかったという。

もうひとつは、台湾本土語（閩南語）の影響を受けて生じた語彙と統語的な異なりである。例えば、「伴手禮」（ちょっとしたお菓子、手土産）という言葉は、台湾語と中国語が合体して台湾で作られた語である（林・吉田 2022）。また、選好される語順にも違いがある。以下、台湾華語の統語的特徴が表われている例をいくつか挙げる。1つは、(1)のような前置詞（介詞）「給・給'gei'」の統語的位置の問題がある。張（2021）によると、(1a)は台湾華語で好まれ、(1b)は普通話で好まれるという。実際、筆者が台湾華語話者と普通話話者に(1)のどちらがより自然かを尋ねた時も、台湾華語話者は(1a)、普通話話者は(1b)と答えた。また(1a)(1b)に関しては、台湾では世代差もあるという。1980年代生まれの台湾華語話者は、(1b)を使用することも、きくこともなかったと話していた。つまり、台湾華語と普通話では語順の選好が異なると考えられる。

(1) a. 我 買 了 一 本 書 給 她。[台湾華語]

私 買 了 一 本 書 給 她。[普通話]

「私は彼女に本を1冊買った」

² 注音符號は1918年に公布され、字形は古漢字と篆書に由来し、一字母一音素のローマ字表記とも、一文字一音節の日本語の仮名とも異なる漢語音韻学の伝統に由来するものである（林・吉田 2022）。中華民国成立後に公布された注音符號は中華民国が台湾に撤退したことで存続し、台湾ではパソコンや携帯電話の文字入力、学校や図書館の検索システムなどで広く使用されている。中国語教育においても2000年代前半に筆者が台湾に語学留学した際は、注音符號による教授方法が採用されていた。しかし、2017年に台湾へ語学留学した日本人の話によると、台湾でも拼音による教授方法がとられていたという。拼音が世界的に浸透しているのに対して、注音符號は台湾独自のものという扱いであるため、世界的に多数派である中国語教育の教授方法に合わせた結果であると考えられる。

b. 我 給 他 买 了 一 本 书。[普通話]

私 gei 彼女 買う -た 1 冊 本。

「私は彼女に本を1冊買った」

(張 2021 : 61)

また、「給」に関して、文法の面では(2a)の誤用といわれる(2b)が台湾華語では使用されるという。

(2) a. 他 打 我

彼 叩く 私

「彼が私を叩いた」

b. 他 給 我 打

彼 gei 私 叩く

「彼が私を叩いた」

(林・吉田 2022 : 134)

2つ目は、台湾華語では「有」を助動詞として使用する特徴があり、「～したことがある」という経験を表す場合、①「動詞+“過”」(普通話と同様)②「“有”+動詞+“過”」(普通話にない、方言の影響と言われているもの)の2つの構造が使用され、②は口語に多い(張 2021)。具体例は(3)(4)である。

(3) a. 你 去 过 台北 妈？[普通話]

あなた 行く 経験 台北 か

「台北に行ったことがありますか」

b. 你 有 去 過 臺北 嗎？[台湾華語]

あなた ある 行く 経験 台北 か

「台北に行ったことがありますか」

(林・吉田 2022 : 134-135)

(4) a. 我 查 过。[普通話]

私 調べる 経験

「私は調べたことがある」

b. 我 有 查 過。[台湾華語]

私 ある 調べる 経験

「私は調べたことがある」

(張 2021 : 94)

3つ目は、台湾華語の「會」の使用である。台湾華語の「會」の使用は特徴的であり、普通話では(5a)、台湾華語では(5b)の表現が用いられ、「會」で未来の意味を表す(林・吉田 2022 : 135)。

(5) a. 明天 你 去 台北 媽？[普通話]

明日 あなた 行く 台北 か

「明日あなたは台北に行きますか」

b. 明天 你 會 去 臺北 嗎？[台湾華語]

明日 あなた hui 行く 台北 か

「明日あなたは台北に行きますか」

(林・吉田 2022 : 135)

以上のように、台湾華語は普通話と異なる統語的な特徴が見られる。次節では、台湾華語の動詞述語文の用例を考察する。そして、台湾華語の動詞述語文の語順の類型を整理する。

3. 台湾華語の動詞述語文の類型

3-1 基本語順

本節では、基本語順を確認する。普通話と台湾華語の基本語順は同様に〔主語＋動詞＋目的語〕(以下 SVO と記す)である。台湾華語の動詞述語文について、張(2021 : 19)では以下(6)から(9)のように示している。

(6) 我 買 書。

私 買う 本

「私は本を買う」

(7) 我 不 去 圖書館。

私 NEG³ 行く 図書館

「私は図書館に行かない」

(8) 她 是 老師。

彼女 だ 先生

「彼女は教師だ」

(9) 她 不 是 學生。

彼女 NEG だ 学生

「彼女は学生ではない」

基本語順とは、一般的に他動詞文の語順である。台湾華語の基本語順は普通話と同様に目的語が動詞の後ろに置かれる SVO である。しかし、中国語は、自動詞と他動詞の区別が難しい場

³ ‘NEG’は‘negative’ (否定) を表す。

合がある。例えば、(7)の「去」は自動詞であるが、移動先は動詞に後置して SVO 形式となる。(8)の「是」は、コンピュータ文を作る要素であるが、中国語では動詞である。この「是」の後の要素を目的語と捉えたと SVO 形式である。木村(2004)は、中国語は自動詞であるか他動詞であるかの明確な判断が難しく、有力な判断基準として動詞の後に目的語がとれるかどうかということがあるが、自動詞であっても構造的に目的語がとれることがあると述べる。木村(2004)で挙げられている SVO 形式をとる自動詞の例をみると、形式的に動詞に後置する目的語に相当する要素として、①「移動する場所を表すもの」②「経過を表すもの」③「移動の相対的位置を表すもの」④「経過する時間を表すもの」⑤「時間的経由点を表すもの」⑥「基準となる境界線を表すもの」⑦「離脱点を表すもの」⑧「不在の場所や不参加の催しを表すもの」⑨「何を～(か)」の形で、問題の原因・理由を聞くもの」がある⁴。木村(2004)によると、中国語における自動詞と他動詞の区別方法という問題に関しては、これまで様々な論争がなされてきたが結論は得られていないという。また、中国語の目的語の特徴としては、体言的な要素(名詞句)に限らず、用言的な要素(動詞句/節)も目的語の位置に置くことができることが指摘されている(朱 1995 など)。

3-2 中国語における自動詞・他動詞の区別と目的語の範囲

本節では、中国語における自動詞と他動詞の区別とどのような要素が目的語であると考えられているかについて述べる。日本語では、自動詞と他動詞に相当する区分はある程度可能だが、完全に区別できないところもある。加藤(2006:31)によると、問題になるのは格助詞の「を」のついた名詞句のうちどこまでを目的語としてみるか、他動詞用法をどこまで認めるかということである。加藤(2006)によると、一般的に場所格に用いた「商店街を歩く」のような場合は目的語とせず、対象格である場合に目的語と認定するが、両者は連続の関係にあるという。例えば、「ジルバを踊る」のヲは対象格に分類でき、「字を間違える」「友人を訪ねる」「難関を

⁴ 形式的に SVO の自動詞(木村 2004)

- ①移動する場所を表すもの「他跑了几个城市」(彼は街をいくつか駆け回った)
- ②経過を表すもの「游行队伍正经过大桥」(デモ隊はちょうど大橋を渡っている)
- ③移動の相対的位置を表すもの「四百米接力二班跑第一。」(400メートルリレーで2組は1位を走った)
- ④経過する時間を表すもの「我们全家过了个春节」(私たち一家は旧正月を過ごした)
- ⑤時間的経由点を表すもの「我们的友谊已经过了漫长的时间」(私たちの友情は果てしない年月を過ぎた)
- ⑥基準となる境界線を表すもの「他的月收入超过了500元」(彼の月収は500元を超えた)
- ⑦離脱点を表すもの「这个代表团都离开了北京」(この代表団はもう北京を離れた)
- ⑧不在の場所や不参加の催しを表すもの「不上课, 不上班」(欠席する)
- ⑨「何を～(か)」の形で、問題の原因・理由を聞くもの「哭什么?」(何を泣いているの)

突破する」などのヲをどう分類するかで動詞の分類も変化する（加藤 2006）。中国語は孤立語であるため、膠着語である日本語のように目的格を標示する「を」のような言語形式はない。したがって、語順が名詞や動詞の文法関係を表すことになる。

類型論的観点から見ると、中国語の他動詞文の典型的な語順は、SVOであり英語と同じである。しかし、中国語の自動詞と他動詞の区別や目的語の認定は、英語と同じように捉えられるものではない。本節では、中国語における「動詞＋目的語」（VO 構造/動目構造）の目的語にはどのような要素が置かれるのか、また、目的語と動詞の意味関係にはどのようなものがあるかを確認する。

中国語の VO 構造の動詞が表す動作に対する目的語の意味をまとめる。表1は、動詞と目的語の意味的關係についての記述を奥水・島田（2009）と北京大学中国語文学系現代漢語教研室（2004）、朱（1995）の3つで比較したものである。これら3つの文献では、「動作の受け手」「動作により生み出された成果・結果」「動作の場所・移動先」「動作主、存在・出現するもの」においては目的語と捉えている点で共通している。

表1 「動詞＋目的語」構造における目的語の意味

目的語の意味	VO 意味関係	1. 奥水・島田 (2009)	2. 北京大学中国語文学系現代漢語教研室 (2004)	3. 朱 (1995)
1. 動作の受け手 2. 受動者 3. 対象	を	吃 <u>面包</u> 食べる- <u>パン</u> 喝咖啡 飲む- <u>コーヒー</u>	洗衣服 洗う- <u>服</u>	擦玻璃 拭く- <u>窓</u> 吃苹果 食べる- <u>りんご</u>
1. 生み出された成果 2. 生産された結果 3. 生み出す結果であるもの	を	做菜 作る- <u>料理</u> 写信 書く- <u>手紙</u>	写信 書く- <u>手紙</u>	盖房子 建てる- <u>家</u> 写信 書く- <u>手紙</u>
1. 場所（帰着点） 2. 場所や方位 3. 移動先	へ・に	去 <u>上海</u> 行く- <u>上海</u> 进教室 入る- <u>教室</u>	坐地上 座る- <u>地面</u> 站门外 立つ- <u>ドアの外</u>	上 <u>广州</u> 行く- <u>広州</u> 进医院 入る- <u>病院</u> (入院する)
1. 存在・出現するもの 2. 動作主 3. 動作者	が	有 <u>人</u> いる- <u>人</u> 下雨 降る- <u>雨</u>	来客人 来る- <u>客</u> 晒太阳 照る- <u>太陽</u> 住人 住む- <u>人</u>	来客人（了） 来る- <u>人</u> 住人 住む- <u>人</u>
2. 動作行為の道具 3. 動作の拠り所となる道具	で		抽烟斗 吸う- <u>パイプ</u> 写毛笔 書く- <u>筆</u> 吃大碗 食べる- <u>どんぶり</u>	洗冷水 洗う- <u>冷水</u> 抽烟斗 吸う- <u>パイプ</u>

表1 「動詞＋目的語」構造における目的語の意味（つづき）

目的語の意味	VO 意味関係	1. 輿水・島田 (2009)	2. 北京大学中国語 言文学系現代漢 語教研室 (2004)	3. 朱 (1995)
1. 主語との関係・ 主語との属性	コピュラ だ・である	是学生 である-学生 姓王 姓とする-王		
2. 動作行為と関係のある事 物の数量 3. 動作の持続時間	副詞		买了三斤 買った-1.5 kg 再住三天 住む-3 日間 看了-下 見る-ちょっと	住三天 住む-3 日間 等一会儿 待つ-短時間

上記3つの文献で見解が異なるのは、「動作行為の道具」を表す具格と「主語との関係・主語との属性」を表すコピュラ、「動作の持続時間」を表す要素である。「動作行為の道具」に関しては、北京大学中国語言文学系現代漢語教研室（2004）と朱（1995）では、目的語として扱う。コピュラ文を作る要素の「是」は、動詞であることから、輿水・島田（2009：70）では動作と目的語の関係として記述されていると考えられる。「動作の持続時間」に関しては、これを目的語に入れるか入れないかは、文法書により記述が分かるところである。ひとつの考え方として、このようなものを「数量目的語」などと呼び、動作の行われる時間や量を表す目的語と捉えるものがある（朱 1995, 北京大学中国語言文学系現代漢語教研室 2004, 沖森・蘇 2014）。もうひとつは、動作量, 時間量, 比較数量を補語と捉える考え方があり、輿水・島田（2009）によると、教室文法ではガイドラインも含め補語⁵として見る考え方が一般的であると述べている。つまり、中国語学における研究文法としては、目的語と捉える考え方が優勢であり、中国語教育文法としては補語として考えるのが一般的であると考えられる。北京大学中国語言文学系現代漢語教研室（2004）では、動作量, 時間量について以下のように述べている。

多くの文法書はこれらの目的語を補語の中へ入れているが、本書ではそのような意見は採用しない。なぜなら、文法パターンの上で見たとき、“看一天”〔1日読む〕, “看一次”〔一度読む〕, という形は、典型的な動目構造である“看一本”〔一冊読む〕とかなり近いからで

⁵ 中国語文法の補語について、北京大学中国語言文学系現代漢語教研室（2004）の説明を以下にまとめる。補語とは、動詞あるいは形容詞の後ろに置かれて補充説明をする成分であり、例えば、“洗干净”〔洗ってきれいになる（→きれいに洗う）〕の“洗”〔洗う〕は動語, “干净”〔きれいな〕は補語であり、補語“干净”は動語“洗”を補充説明している。しかし、補語には“我吃饱了”〔私は食べて満腹になった。（←私が満腹だ）〕のように主語になっている動作主の状態を説明するものもある（北京大学中国語言文学系現代漢語教研室 2004：297）。

ある。(中略) 名詞量を含む“一本”〔一冊〕は他動詞の目的語にしかねないが、時間量を含む“一天”〔1日〕や動量詞を含む“一次”〔一度〕などは、他動詞のほかにも自動詞や形容詞の目的語になることもできる。(中略) 我々は時量詞や動量詞によって構成された目的語を準目的語(“准宾语”)と呼んで、名詞量からなる数量目的語と区別することとする。

(北京大学中国語言文学系現代漢語教研室 2004: 295-296)

以上のように、中国語の目的語の判断基準は、その他の言語と異なる点が多い。このことは、中国語において、自動詞と他動詞の区別が困難であることにも影響している。多くの印欧語では、能動態(active verb)と対をなす受動態(passive voice)がつくられることが他動詞の目印とされ、目的語を必要とする動詞だけが受動態をつくりうる(亀井ほか 1996: 890)。しかし、中国語は、“烧热水”(お湯を沸かす)、“写字”(字を書く)のような明らかな目的語を持つような他動詞文であっても“*热水被烧了”(お湯が沸かされた)“*字被写了”(字が書かれた)のような受け身文にすることができない(“被”は受け身を表す介詞であり、“被+実行者”という構造で使用されるが、実行者は省略する場合がある)。守屋(1995: 283)によると、中国語の受け身文に求められる条件として、動詞は動作・行為の対象を表す目的語に従える他動詞でなければならない。したがって、動作の結果生じるものが目的語となる場合は受け身文にできないという。つまり、中国語においては、能動態と対をなす受動態が作れるかどうかにより他動詞を判断することは有効ではないと言える。木村(2004)では、中国語の他動詞を他動性の観点⁶から判断している。

中国語において、どの範囲までの要素を目的語として認めるかという問題に関しては、先行

⁶ 木村(2004)で他動詞としているもの

①主体の動作・作用が直接及ぶもの

A. 目的語が外的変化を伴うもの「我们要打倒封建主义」(我々は封建主義を打倒しなければならない。)

B. 目的語が内的変化を伴うもの「丈夫改正了吸烟的毛病」(夫はタバコを吸う癖を直した)

C. 目的語自体が変化を伴わないもの「老师报告了一个好消息」(先生は1つのよい知らせを告げた)

②精神的働きかけの対象となるもの「他忘记了电话号码」(彼は電話番号を忘れた)

③その動作・作用によって結果的に作り出されるもの「他们树立了较高的威信」(彼らはかなり高い威信を打ち立てた)

④使用・操作する対象としての道具(道具目的語)「他操纵着那台机器」(彼はその機会を操作している)

⑤主体の演じる役割(役割目的語)「陈刚扮演反面人物」(陳剛は悪い人物を演じている)

⑥動作・作用の向かう対象としての場所(場所目的語)「值日生在擦黑板」(日直が黒板を消している)

⑦動作・作用の向かう対象としての方向(方向目的語)「这间房间向东」(この部屋は東向きだ)

研究においても見解の異なりがあり、議論の余地がある問題である。本稿では、目的語の認定基準として、VO 構造という形式に依る判断ではなく、動詞が要求する項がいくつあるかにより判断することにする。目的語が動詞の後方に置かれるかという形式的な基準を採用しない理由は、動詞に前置する目的語があるからである。目的語が動詞の前方に置かれる文は台湾華語にも普通話にもみられる。目的語が動詞の前方に位置する例は次節で示す。

3-3 基本語順以外の動詞述語文

3-3-1 目的語が動詞に前置する語順

本節では、台湾華語に見られる基本語順以外の動詞述語文を示す。前節で述べたように、台湾華語の基本語順は普通話と同様に SVO である。しかし、普通話も台湾華語も目的語が動詞に前置する場合がある。

中国語はグリーンバーク以来の他動詞文の語順の類型に分類するのが難しい (Li & Thompson 1981: 19-27)。文中の各成分 (主語 (S), 動詞 (V), 目的語 (O)) の配列順序⁷ は言語類型学の 1 つのパラメーターであり、早期の系統的な研究である Greenberg (1963) は中国語を分類しなかったが、語順類型学形成後に中国語の語順がどの類に属するのか議論となる (徐・劉 2017: 328)。徐・劉 (2017) によると、Tai (1973) は中国語を SVO 言語と分析するのが比較的適切であると考え、Li & Thompson (1973a, 1973b, 1975) は、通時言語学的角度から、ここ二千年来の中国語が SVO 言語から SOV 言語へ変わったという提案をし、Tai (1973) もそれを支持している (徐・劉 2017: 328)。このように中国語の語順は類型論の観点で捉え難いものである。その要因として Li & Thompson (1981) は、主語の概念はマンダリン (普通話) の文法において構造的に十分に定義されないこと、語順が文法的機能 (grammatical functions) よりも意味機能 (semantic factors) により大きな範囲で支配されること、グリーンバークの類型論の VO と OV の特徴に合致せず修飾構造では OV の特徴 (主要部右方型) に合致することを指摘している (Li & Thompson 1981: 19)。Li & Thompson (1981) が述べている語順を左右する意味機能 (semantic factors) とは、動詞前置 (preverbal position) の主題、主語、目的語は定 (definiteness) であり聞き手と話し手がすでに知っている既知情報であるということである (Li & Thompson 1981: 19-20)。したがって、中国語の語順は、話し手と聞き手の知識の共有の有無やその場の状況といった語用論的な要因にも影響を受けている。

本節では、台湾華語に見られる目的語が動詞に前置する用例を示す。台湾華語の目的語が動詞に前置する語順は (10) のようなパターンがみられる。これらはすべて、目的語が動詞の前方に位置する語順である。(10a) (10b) (10c) は、目的語の主題化 (topicalization) の例である

⁷ SOV, SVO, VSO, VOS, OVS, OSV という 6 つ配列があり世界の言語の大部分は前の 3 つのタイプに属し後ろの 3 つのタイプは少ないという (徐・劉 2017)。

と考えられる。(10d) (10e) は、特定の構文を使用して、目的語を動詞の前方に配置して、目的語をとりたてる文である。

- (10) a. [目的語 + 主語 + 動詞] (OSV)
- b. [主語 + 目的語 + 動詞] (SOV)
- c. [目的語 + 動詞] (OV)
- d. “連～也／都”構文
- e. “把”構文

台湾華語の(10)に示した語順の具体例を以下に示す。(11) 下線部は、(10a)の語順パターンの例である。(12)は(10b)の、(13)は(10c)の語順パターンの例である。これらは、すべて目的語の主題化(topicalization)であると考えられる。(14)は(10d)の「連～都構文」である。この場合の「連・连・lian」は、前置詞であり、「～さえも」という強調の意味をもつ(北京大学中国語文学系現代漢語教研室 2004: 374)。(15)は(10e)の「把構文」である。前置詞「把‘ba’」の文法的な機能は、「人や事物に対する処置を表すこと」である(北京大学中国語文学系現代漢語教研室 2004: 362)。「把構文」は、その人や事物にどのような処置をしたか聞き手に伝えようとする場合に使用され、とりたてて処置を表す必要がなければ把構文を使う必要はない(北京大学中国語文学系現代漢語教研室 2004: 362)。つまり、(14) (15)は目的語をとりたてる文である。

- (11) 我看你也累了一個晚上了先到我家吃個飯,
 其他 的 事 我們 路上 說
 その他 の こと 私たち 道中 話す
 「その他のことは、私たち、道中で話す」
 「大変だったな、ウチで何か食べよう、行く途中で話すよ」(台湾映画『瀑布』)
- (12) 我 飯 已經 做 好 了。 你趕快出來吃 不然等下要涼了。
 私 食事 すでに 作る 補語 PART
 「私はご飯をすでに作った」
 「早く食べないと冷めるわよ」(台湾映画『瀑布』)
- (13) 醫生 交代 的 藥 一定 要 按時 吃
 医者 説明する への 薬 必ず する必要がある 時間通りに 食べる
 「医者の説明した薬は必ず時間通りに飲む必要がある」
 「薬は必ず飲むんだぞ」(台湾映画『瀑布』)
- (14) 乙松傾吐了半個世紀來的怨言和驕傲,

能 想到 的 每 一 樁事 都 說 了,
できる 思いつく の ごと ひとつ のこと 全て 言う

連 他 自己 都 感到 意外。(『鐵道員』『鐵道員』p.37)
さえ 彼 自分 みな 感じる 意外である

「思いつくひとつひとつのこと全て話した、彼自身でさえ意外に感じる」

「自分でもどうかしていると思いながら、乙松は半世紀分の愚痴や自慢を、思いつくはしから口にした」(『鐵道員』『鐵道員』p.37)

- (15) 他 把 昨天 那個 小 女孩, 還有 小 女孩 姊姊,
彼 ba 昨日 あの 小さい 女の子 そのうえ 小さい 女の子 姉
看成 了 無緣 的 女兒。(『鐵道員』『鐵道員』p.25)
見なす 縁がない の 娘

「彼は昨日のあの小さい女の子と姉を縁がない娘と見なした」

「なんだかゆうべの妹も、この姉も、死んだユッコのような気がしてならなかった」
(『鐵道員』『鐵道員』p.25)

目的語を主題化、或いは、特定の構文により動詞の前方に置き、とりたてるという操作は、無標となる基本語順に対立する文を作る理由が存在するということである。基本語順 SVO が無標であるなら、(10) に示した目的語が動詞の前方に配置される文は有標である。本稿では、無標の語順と有標の語順に着目するために、目的語が動詞に前置するか後置するかという基準にもとづいて、台湾華語の用例をもとに語順の類型を整理する。

3-3-2 動詞が複数ある動詞述語文

本節では、動詞が複数ある動詞述語文をみていく。中国語には複述構造〔“复谓结构”〕とい

⁸ 複述構造〔“复谓结构”〕の具体例を北京大学中国語言文学系現代漢語教研室（2004：316-317）にもとづいて以下に示す。①から④は連動構造（連動式）、⑤から⑦は兼語構造、⑧⑨は連鎖構造のように分類できる。「連動構造」が表す意味は複雑であり、並立構造とは異なるため動詞の順番を入れ替えると意味が変わる。「連鎖構造」は、前後2つの動詞/形容詞が接続機能を持つ“越-越-”などの要素（虚詞）により結びつけられる。

①背着书包/上学校（ランドセルを背負って学校に通う）

②去北京/看望我姑父（北京へ行っておじさんを見舞う）

③有可能/下雨（雨が降る可能性がある）

④吃过午饭/喝茶（お昼ご飯のあと、お茶にする）

⑤请你/去一下（あなたに行ってもらう）

⑥通知王老师/来办公室（王先生に事務室へ来てくれるように知らせる）

う2つあるいは2つ以上の用言(述詞[“谓词”])性の語句が連用された構造⁸がある(北京大学中国語言文学系現代漢語教研室2004:316)。ここでいう「用言」とは、述語ではなく、動詞と形容詞のことを指している。本稿では、このような構造のうち、「有」を伴う動詞述語文と coverb を伴う動詞述語文を中心にみていく。coverb の説明は、後述する。

3-3-2-1 節では、「有」を伴う複数の動詞からなる文を考察する。中国語の「有」は存在や所有を表すが、「有」の後に節や動詞句を続けて、連続する一連の動作行為を表す「連動文」を形成する。「連動文」とは「文の謂語に2個の動詞連語を連用しているもの」(李1993:407)と説明されている。言い換えると、文の述語に2個の動詞句があるものであると考えられる。李(1993:325-326)は、「有」を含む連動文として、1.「“有”+賓語(目的語)が原因を表すもの」、2.「“有”+賓語(目的語)が仮定を表すもの」、3.「“有”の賓語(目的語)を後に移せるもの」の3つに分類している。例えば、1.「原因を表すもの」は、“他有病不能来上班(彼は病気で出勤して来ることができません)”のような例であり、2.「仮定を表すもの」は、“你们有什么事给我打电话(みなさん何か用事があれば、私に電話してください)”のような例である(李1993:325-326)。3.「“有”の賓語を後に移せるもの」とは、“我们有信心战胜困难(我々には困難にうち勝つ自信があります)”の“信心”を文末に移動して“我们有战胜困难的信心”とすることができるということである(李1993:326-327)。このように、李(1993)では、「有」を含む連動文について言及があるものの、意味的な分類と構造的な分類を混在させている。

関連する構文として、「兼語文」と呼ばれるものがある。これは、前方の動詞の目的語が後方の動詞の主語でもある構造の文である。張(2021)の「兼語文」の説明を以下にまとめる。“老師要我們練習寫字”「先生が私たちに字を書く練習をさせる(先生は私たちが字の書き方を練習するよう(私たちに)求めている)」は“我們”が“要”の目的語であり、“練習”の主語でもある。多くの兼語文は使役の意味を持つが、単なる存在を表す「有」も不特定の人物の動作行為について述べる時、“(外面)有人找你”「外にお客さんがいます(外にあなたを訪ねる人がいます)」のように兼語文が使われる(張2021:108)。本稿では、「有」の後にどのような要素がどのような語順で並んでいるかに注目して整理する。

3-3-2-2 節では、coverb を伴う文を考察する。“coverb”とは、動詞と同音異義の前置詞の両方を表現しているとみなされる欠如動詞(不完全な動詞)クラスの要素である(Matthews 2006:70-71)。ここで言う「欠如」「不完全」とは、本動詞の意味が希薄化しているという意味である。中国語の coverb は、動詞から文法化している語の品詞を示す(wang 2025: 1)。つまり、現代標準中国語文法では、coverb を動詞から文法化した前置詞(介詞)として扱う(Wang 2025: 1-2)。

⑦ 选他/当我们的代表(彼を我々の代表に選ぶ)

⑧ 一看/就懂(一目見てわかる)

⑨ 越说/越糊涂(話せば話すほどわけがわからなくなる)

(16) の coverb“用”が動詞の場合には「箸を使って」という解釈になり、前置詞の場合には「箸で」という解釈になる。前者の解釈の場合は、連動文と考えることができる。中国語では、文法化した要素は軽く発音されるため、動詞の場合、第四声で“yòng”と発音され、前置詞の場合は軽く発音される。

Wang によると、これまで中国語研究において、積極的に議論されてきたのは“verbal groups”であり、“coverbal phrase”の研究はきわめてまれで、時々大雑把に議論されるだけであった (Wang 2005 : 3)。本稿では、この“coverbal phrase”に着目して、動詞述語文を類型化する。

coverb とみなされる要素は、典型的に動詞の前方に置かれる (Wang 2025 : 9)。例えば、(16) は coverb“用”が動詞‘夹了’の前方にある (Wang 2025)。一方で、Wang (2025) は、動詞の後方にも配置可能な coverb“在”“自”“到”“给”“向”“于”についても指摘する (Wang 2025 : 13)。Wang は (17) を挙げて‘落’が過程 (Process) を表す“verbal group”であり‘在这些伧夫手里’が場所 (Location) を表す“place coverbal phrase”であると分析する。

(16) 严志和 用 筷子 夹 了 一 根 咸菜 (Wang 2025: 9)

Yazhihe yong 箸 挟む 1 CL⁹ 漬物

「yazhihe が箸で/を使って漬物を挟む」

(17) 宝物 落 在 这些 伧夫 手 里 (Wang 2025: 14)

宝物 落ちる zai これら 粗野な男 手 中

「宝物が粗野な男の手の中に落ちる」

本稿では、coverb が他の動詞の前方に位置しているか、後方に位置しているかに注目する。coverb の語順について、Wang (2025) は、情報構造との関係を指摘しているが、本稿ではその点については立ち入らず別稿に譲る。また、「有」と coverb を両方伴う複数の動詞からなる文に関しては、coverb を伴う文として扱い 3-2-2 節で検討する。

3-3-2-1 「有」を伴う複数の動詞からなる文

本節では、「有」を伴う複数の動詞からなる文をみていく。まず、このような例は、以下 (18) の a から e に示す 5 つの語順のパターンがみられる。(18a) は「有」の後に「主語＋自動詞」構造がある語順であり、[有 S Vi] と示す。(18b) は、「有」の後に「主語＋他動詞」構造がある語順であり、[有 S Vt] と示す。(18c) は、「有」の後に「他動詞＋目的語」構造がある語順であり、[有 Vt O] と示す。(18d) は、「有」の後に「目的語＋他動詞」構造がある語順であり、[有 O Vt] と示す。(18e) は、「有」の後に「動詞＋補語」構造がある語順であり、[有 V C] と示す。

⁹ ‘CL’は、‘classifier’ (類別詞) を表す。

- (18) a. [有 S Vi]
- b. [有 S Vt]
- c. [有 Vt O]
- d. [有 O Vt]
- e. [有 V C]

(18a) の [有 S Vi] の例を示す。以下 (19) (20) (21) (22) は、主語である (19) “黒髪”, (20) “許多人” (多くの人), (21) (22) “鷺鷥” (鷺) が統語構造上は動詞「有」の目的語であり、後方の動詞の主語でもある例である。(23) も“外國人”が「有」の目的語であり、動詞“走過來”の主語でもある。言い換えると、これら (19) から (23) は、先に述べた現代標準中国語文法で従来から指摘がある兼語文である。

- (19) 眼前 就 有 黒髪 飛 来 (『夢十夜』高訳, p.202)
 目の前 すぐ ある 黒髪 飛ぶ 来る
 「目の前に黒い髪の毛が飛んでくる」
 「(中略) 黒い毛が飛んでくるので (中略)」(『夢十夜』原文 p.32)
- (20) 有 許多人 早 一 步 到 来 (『夢十夜』高訳, p.194)
 いる 多い 人 早く 1 あゆみ 着く 来る
 「多くの人が集まって来る」
 「(中略) 大勢集まって (中略)」(『夢十夜』原文, p.25)
- (21) 因為 有 白 鷺鷥 在 叫 啊。(『夢十夜』高訳, p.184)
 いる 白い 鷺 ている 鳴く
 「白い鷺が鳴いている」
 「だって鷺が鳴くじゃないか」(『夢十夜』原文, p.15)
- (22) 不時 有 白 鷺鷥 掠過。(『夢十夜』楊訳, p.27)
 ある 白い 鷺 かすめてすぎる
 「度々白い鷺が掠めてすぎる」
 「鷺の影が時々闇に差す」(『夢十夜』「第三夜」原文, p.14)
- (23) 有 個 外國人 走 過來 問 我 懂 不 懂 天文學 (『夢十夜』陽訳, p.45)
 ある CL 外国人 歩く くる きく 私 わかる NEG わかる 天文学
 「外国人が歩いてきて私に天文学がわかるか質問する」
 「一人の異人が来て、天文学を知っているかと尋ねた」(『夢十夜』原文, pp.29-30)

(18b) の [有 S Vt] の例を示す。(24) (25) (26) には、小説の引用部分がある。(24) は、

発言の内容が目的語に相当し、文頭に位置して動詞に前置している。(25)は基本語順に従い、動詞の後に目的語に相当する発言の内容がある。(26)も発言の内容が文頭に位置している点で(24)と同様である。しかし、(26)は“人這麼説”とあるので、「有」以降は(10b)のSOV構造であると考えられる。“這麼”が照応するのが文頭の発話内容の引用であることから、“這麼”を目的語と捉えると(10b)が「有」に続いている例である。

- (24) 「好大一尊啊！」有 人 説。(『夢十夜』陽訳, p.40)
 いる 人 言う
 「「大きなもんだな」と言う人がいる」
 「「大きなもんだな」と言っている」(『夢十夜』原文, p.25)
- (25) 聽到有 個 男人 説：「哦，仁王像啊！（中略）」(『夢十夜』陽訳, p.40)
 いる CL 男性 言う
 「「へえ，仁王だね」と男が言うのが聞こえた」
 「「へえ仁王だね。(中略)」といった男がある」(『夢十夜』原文, p.25)
- (26) 「好大呀！」有 人 這麼 説。(『夢十夜』周訳, p.25)
 いる 人 このように 言う
 「「大きいな」このように言う人がいる」
 「「大きいもんだな」と言っている」(『夢十夜』原文, p.25)

他にも(27)(28)の下線部は、「回家」(帰る)というVO構造の動詞が「有」に続いている。(28)下線部は、「罵+N」で「Nを叱る」という意味だが、“罵她”(彼女を叱る)が「有」の後に続いている。(28)は、“她”が“罵”の目的語であり、“是”の主語でもある兼語文である。これらは、(18c)の[有 Vt O]の例である。

- (27) 你 知道 前 幾天 爸爸 有 回 家 嗎？
 あなた 知っている 前 何日 お父さん ある 帰る 家 か
 「あなたは何日か前にお父さんが家に帰ったことを知っていますか」
 「最近 家に行ったんだ」 (台湾映画『瀑布』)
- (28) 那 你 有 罵 她 是 “賊人” 嗎？
 あなた ある 叱る 彼女 である 悪人 か
 「それなら、あなたは彼女は悪人であると叱りましたか」
 「“クソ女”と言ったのか？」 (台湾映画『瀑布』)

(18d)の[有 OVt]の例を示す。(29)(30)は、(10c)のOV構造が「有」に続いている。(29)

の目的語“這東西”，(30) の目的語“很多事”は，動詞「有」と後方の動詞である (29) “用”，(30) “處理”で共有されている目的語である。

(29) 都忘了 還 有 這 東西 能 用，(『鐵道員』「情書」p.69)

まだ ある この もの できる 使用する

「まだ使用できるものがある」

「うっかり忘れてたけど，これ，役に立ちますよ。」(『鐵道員』「ラブ・レター」p.68)

(30) 我們 還 有 很多 事 要 處理，(「情書」『鐵道員』p.75)

まだ ある たくさん こと しなければならない 処理する

「まだたくさんしなければならないことがある」

「まだやることいっぱいあるですよ」(『鐵道員』「ラブ・レター」p.74)

最後に，(18e) の [有 VC] の例を示す。(31) は，「動詞＋補語」の構造である“看見”が「有」の後に続いている。

(31) 「先生，您 有 看見 門 外 賣 金魚 的 小販 嗎？」(『夢十夜』周記，p.33)

あなた ある 見える ドア外 売る 金魚 の 行商人 か

「門外で金魚を売る人が見えますか」

「旦那は表の金魚売を御覧なすったか」(『夢十夜』原文，p.33)

この構造は，先述の台湾華語の特徴として張 (2021) が指摘する「有＋動詞＋過（経験を表すアスペクト）」に似ているが，(31) は「有＋動詞＋補語」の例である。

3-3-2-2 coverb を伴う動詞述語文

本節では，台湾華語における coverb を伴う動詞述語文を考察する。coverb を伴う動詞述語文は，大きく分けて 2 種類に分けられる。ひとつは，[coverb＋名詞 (N)＋動詞 (V)]，もうひとつは，[動詞 (V)＋coverb＋名詞 (N)] である。つまり，coverb が動詞の前方に位置するか，後方に位置するかにより 2 つに分けられる。

[coverb＋名詞＋動詞] の例を以下に示す。(32) (33) (34) は coverb 「在‘zai’」を伴う動詞述語文である。(32) の coverb の後の動詞“坐下”は自動詞であり，(33) (34) の coverb の後の動詞である (33) “散發出”，(34) “貼”は，他動詞である。これらは，Wang が「coverb とみなされる要素は，典型的に動詞の前方に置かれる」(Wang 2025: 9) と述べていることから coverb を伴う文の典型的な語順，つまり無標の語順である。

- (32) 我 在 青苔 上 坐下, 望 著 圓圓 的 墓碑, (『夢十夜』周訳, p.8)
私 zai 青いコケ上 座る みる ている まるい の 墓石
「私は青い苔の上に座って、丸い墓石を眺めている」
「自分は苔の上に座った。(中略) 丸い墓石を眺めていた」(『夢十夜』原文, p.10)

- (33) 純白色 的 百合 在 我 鼻 前 散發出 濃烈 芳香。(『夢十夜』周訳 p.9)
真っ白 の ゆり zai 私 鼻 前 ばら撒く 濃厚 良い香り
「真っ白い百合が私の鼻の前で濃厚な良い香りをばら撒く」
「真白な百合が鼻の先で骨に徹えるほど匂った」(『夢十夜』原文 p.10)

(34) (35) (36) (37) は、「有」を伴う文である。前節で示したように「有」を伴う文は, coverb の例にもある。(34) は、「有」に coverb“在”が後置し, coverb の後方にある動詞の動作主“你”は「有」に前置している。

- (34) 那 你 有 在 你 房間 門口 貼 一 張。
あなた ある zai あなた 部屋 入り口 貼る 1 CL
「あなたは部屋のドアに一枚貼りましたか」
「“距離を置け”と書いた紙をドアに貼った？」(台湾映画『瀑布』)

(35) (36) は、「有」の後に置かれる名詞である(35) “老爺爺”, (36) “人”が, coverb の後方の動詞の動作の主体である。(37) は、「有」の後に置かれる名詞“話”が coverb の後方の動詞の動作の対象, つまり, 目的語である。

- (35) 有 位 老爺爺 在 角落裡 擺出 一張 方型 的 小餐桌,
いる CL 爺さん zai 隅 並べる 1 CL 四角 の 小さい食卓
自飲自酌, (『夢十夜』高訳 p.188)
「爺さんが隅で四角い小さな食卓テーブルを並べる。手酌で飲む」
「片隅には四角な善を前において爺さんが一人酒を飲んでいる」(『夢十夜』原文 p.18)
- (36) 有 人 朝 篝火 裡 添 薪柴 (『夢十夜』高訳 p.193)
いる 人 chao 篝火 の中 追加する 薪
「篝火に薪を追加する人がいる」
「誰かが篝火を継ぎ足したので」(『夢十夜』原文, p.23)
- (37) 我 有 話 跟 你 說
私 ある 話 gen あなた 話す

「私はあなたに話す話がある」

「話があるの」(台湾映画『瀑布』)

(34)と(35)(36)の違いは、動作主が「有」に前置しているか、後置しているかの違いである。この違いは、意味的な異なりを生じさせる。(35)(36)は兼語文であり、兼語文は、「不特定の人物の動作行為について述べる」(張 2021: 108)ことから、(35)(36)は不特定の動作主について述べている。一方で、(34)は動作主が「有」に前置しており、“你”で示されていることから特定されている動作主の動作行為について述べている。つまり、(34)は特定の動作主の動作について述べる文である。(34)の場合、特定の動作主“你”が「有」以降に示される動作を行なったか否かを訪ねる文脈で話し言葉として使用されている。したがって、台湾華語の統語的特徴の例として先に挙げた「～したことがある」(“有”+動詞+“過”)という経験を表す「有」の用法に類似すると考えられる。

次に、[動詞+coverb+名詞]のように動詞の後方に coverb が置かれる例を示す。先に述べたように、Wang (2025: 13)は、動詞の後方にも配置可能な coverb として‘在’‘自’‘到’‘给’‘向’‘于’を挙げている。このような例は、台湾華語にも同様に見られる。(38)は、自動詞「坐‘zuo’」に coverb 「在‘zai’」が後置している。(39)(40)は自動詞「走‘zou’」「來‘lai’」に coverb 「到‘dao’」が後置している。(41)は自動詞「出現‘chuxian’」に coverb 「到‘dao’」が後置している。これらは、全て自動詞の後方に coverb が置かれる例である。

- (38) 我 雙手 交臂, 坐 在 床 邊 (『夢十夜』楊訳, p.19)

座る zai ベッド 方

「私は両手を肘と肘とが接して、ベッドの方に座る」

「腕組みをして枕元に座っていると」(『夢十夜』原文, p.7)

- (39) 老爺爺 走 到 外面, (『夢十夜』周訳, p.19)

爺さん 歩く dao 外

「爺さんが外まで歩く」

「爺さんが表へ出た」(『夢十夜』原文, p.19)

- (40) 老爺爺 來 到 大 門 外。 (『夢十夜』高訳, p.189)

爺さん 来る dao 大きい 門 外

「爺さんが大きい門まで来た」

「爺さんが表へ出た」(『夢十夜』原文, p.19)

- (41) 不時 有 白鷺鷥 的 身影 出現 在 黑暗 當中。 (『夢十夜』高訳 p.184)

ある 白い鷺 の 影 出現する zai 暗い 中

「白いサギが暗い中に出現する」

「鷺の影が時々闇に差す」（『夢十夜』原文 p.14）

他動詞の後に coverb が後置する例もある。(42) (43) は、他動詞「放‘fang’」に coverb「在‘zai’」が後置している。しかし、(42) は「星を置く」と解釈できるが、(43) は「人形が置かれていた」のように自動詞的に解釈される。(42) は目的語となる「星」の前に“拾起”（持ち上げる）という動詞があり「星を持ち上げる」という動作に続いて「星を土の上に置く」という動作が続き他動詞的解釈につながると考えられる。

(42) 我 拾起 一 片 星辰 放 在 泥土 上。(『夢十夜』楊訳, p.20)

私 持ち上げる 1 CL 星 置く zai 土 上

「私はひとかけらの星を拾い上げて土の上に置く」

「それから星の破片の落ちたのを拾って来て」（『夢十夜』原文, p.9）

(43) 塑料 人偶 就 放 在 長椅 上。(『鐵道員』「鐵道員」p.29)

プラスチック 人形 置く zai ベンチ 上

「プラスチックの人形はベンチの上に置く」

「セルロイドの人形がベンチの上に置かれていた」（『鐵道員』「鐵道員」p.29）

以上の(42)のような例は(44) (45)のような coverb「給‘gei’」が「遞‘di’」「交‘jiao’」という「渡す」を意味する動詞に後置する場合にもみられる。(44) は「拿來」, (45) は「把」で目的語に処置を施したということを標示することで、後方の動詞の他動詞的な解釈を支えていると考えられる。

(44) 拿來 一 只 牛奶瓶 遞 給 喬凡尼(『銀河鐵道之夜』「喬凡尼的鐵道」p.140)

持つ来る 1 CL 牛乳瓶 渡す gei ジョバンニ

「牛乳瓶を持ってきてジョバンニに渡す」

「一本の牛乳瓶をもってきてジョバンニに渡し」（『銀河鐵道之夜』「喬凡尼的鐵道」p.246）

(45) 乙松 把 人偶 交 給 少女, 少女嫣然一笑(『鐵道員』「鐵道員」p.23)

乙松 を 人形手渡す gei 少女

「乙松は人形を少女に手渡す, 少女は美しくにっこり笑う」

「セルロイドの人形を手渡すと, 少女はにっこりと笑った」（『鐵道員』「鐵道員」p.24）

以上の他にも、(46) のように「有」と「走‘zou’」で主体の「人‘ren’」を共有している例において、動詞の後方に coverb「向‘xiang’」が置かれる場合がある。

- (46) 忽地 有 人 走 向 前 (『夢十夜』高訳, p.193)

急に ある 人 歩く xiang 前

「急に人が前に歩く」

「すると誰やら来て」(『夢十夜』原文, p.23)

また、「給」は「動詞1 + 目的語 + 給 + 名詞 + (動詞2)」という語順が頻繁にみられる。(47) (48) (49) (50) がその例である。これら「給」は、語順は同じであるが、(48) (49) (50) は、「給」に前置する目的語を「給」に後置している受益者に移動する解釈ができ、この「給」は、動詞であると考えられる。しかし、(47) の場合は、目的語が移動する訳ではないため、「給」は前置詞と考えられる。このように、語順が同じ場合でも動詞1と目的語の性質により異なる構造となる場合がある。

- (47) 我 介紹 梅蘭 給 你 認識。(中央研究院)

私 紹介する 梅蘭 gei あなた 知り合う

「私はあなたに梅蘭を紹介しあなたは知り合う」

- (48) 發 聘書 給 各 委員。(中央研究院)

出す 招聘書 gei 各 委員

「各委員に招聘書を出す」

- (49) 我 買 了 一 本 書 給 他。(張 2021 : 60) [再掲]

私 買う -た 1 CL 本 gei 彼

「私は彼女に本を1冊買った」

- (50) 我 買 泳装 給 她們 穿。(『鐵道員』「情書」p.66)

私 買う 水着 gei 彼女たち 着る

(私は彼女たちに水着を買って彼女たちは着た)

「水着買ってやって」(『鐵道員』「ラブ・レター」p.65)

3-4 考察

本稿で示した用例を考察すると台湾華語にみられる動詞述語文には、有標と無標の対立を示すかのような語順の類型があることがわかる。つまり、基本語順とされる無標のSVOに対して動詞の前方に目的語が置かれる有標の語順があること、また、coverbが動詞の前方に置かれる無標の語順に対して、coverbが動詞の後方に置かれる有標の語順があることが有標と無標の対立であると考えられる。また、これら有標と無標の語順には「有」を伴うことができる。

以下、表2において本稿で示した台湾華語の動詞述語文の語順の類型を示す。表2の無標①の基本語順に対して有標①の主題化と「とりたて」がある。そして、無標②の *coverb* が動詞前置する語順に対して、有標②の *coverb* が動詞に後置する語順がある。そして、無標①と有標①、無標②と有標②に対して「有」を伴う文である有標③がある。このことから、台湾華語では「有」を伴う「有＋動詞句（VP）」の使用が頻繁にみられることがわかる。したがって、台湾華語には、従来台湾華語の特徴として指摘されている経験を表す文での使用以外にも様々な文脈で「有」が用いられることがわかる。

「有 VP」の使用は、普通話と異なる台湾華語の特徴である。「有」を用いた動詞述語文に関して、朱（1995）では「動詞“有”からなる述連構造」として、いくつかのタイプをあげているが、これらは全て「有」＋N＋Vの語順で異なる意味を表すことに言及している。つまり、朱（1995）では、(27) (28) の (18c) 「有 Vt O」や (31) の (18e) 「有 VC」のような、「有」の後に動詞句が置かれている例については述べていない。台湾華語話者のインフォーマントは、(27) (28) の用例の「有」が無ければ、容認度が下がると述べる。また、(31) の用例の「有」がない場合

表2 本稿で扱った動詞述語文の語順類型

無標① 基本語順	有標① 主題化 /とりたて	無標② Coverb 動詞前置	有標② Coverb 動詞後置	有標③ “有”を伴う文
SVO (6) (7) (8) (9)	主題化 OSV (11) SOV (12) OV (13)	Coverb + N + Vt + O (33)	N + Vt + Coverb + N (43) V + O + Vt + Coverb + N (42) (44) (45)	【無標①と対立】 有＋SVO (25) 有＋VO (27) (28) 有＋VC (31) 【有標①と対立】 O＋有＋SVt (24) 有＋SOV (26) 有＋OV (29) (30) 【無標②と対立】 有＋Coverb＋N＋Vt (34) 有＋N＋Coverb＋N＋Vt (35) (36) (37) 【有標②と対立】 有＋N＋Vi＋Coverb＋N (46)
	とりたて構文 (14) (15)			
SVi		Coverb + N + Vi (32)	Vi + Coverb + N (38) (39) (40) (41)	兼語文 有＋Svi (19) (20) (21) (22) (23)

は、非常に不自然な文であると判断したうえで、「台灣人不太會這樣講話，中國人比較多的感覺（台湾人はあまりこのように言いません。中国人は比較的多い（多く言う）感じがします）」と述べている。このことから「有 VP」の使用は、台湾華語の特徴であると言える。

本稿での考察の結果、台湾華語では「有」を使用した動詞述語文が頻繁にみられ、従来台湾華語の特徴として指摘されている経験を表す文で用いられる「有」の使用以外にも、様々な文脈で「有」が用いられることを指摘する。台湾華語話者は、日常的に (51)¹⁰ のように「有」の後に動詞句が続く動詞述語文を使用する。このことから、「有」を伴わない動詞述語文と「有」を伴う動詞述語文 [有 VP] という対立があるなかで後者が選好されていると考えられる。

- (51) 我 昨天 有 去 大通 跳舞
私 昨日 ある 行く 大通 踊る
「私は昨日大通に行って踊りました」
你 有 去 参加 這個 活動 嗎？
あなた ある 行く 参加する この イベント か
「あなたはこのイベントに参加しましたか」

また、本稿では無標の自動詞文については扱わなかったが、無標の自動詞文 [SVi] は、「有」を伴い兼語文となることを示した。

4. 結論

本稿では、台湾華語の動詞述語文の語順の類型はどのようなものかを明らかにするために、台湾華語の映像作品の台詞、台湾で出版された書籍、コーパスから動詞述語文の用例を収集して語順を整理した。そして、台湾華語でみられる動詞述語文には、有標と無標の対立を示すかのような語順の類型があることがわかった。また、「有」は多くの語順類型に伴うことを確認し、普通話と異なる台湾華語の特徴を示した。台湾華語にみられる動詞述語文の語順の類型は、意味機能、情報構造とも関わる事が予想される。この問題に関しては今後の課題とする。

(なかむら まいか・言語科学専攻)

参考文献

新井一二三 (2019) 『台湾物語：「麗しの島」の過去・現在・未来』筑摩書房

¹⁰ (51) は台湾華語話者の友人から筆者に送られてきたメッセージである。

- 沖森卓也・蘇紅（2014）『日本語と中国語』朝倉書店
- 風間伸次郎・山田怜夫（2021）『28 言語で読む「星の王子さま」世界の言語を学ぶための言語学入門』東京外国語大学出版会
- 加藤重広（2006）『日本語文法入門ハンドブック』研究社
- 加藤重広（2007）『ことばの科学』（学びのエクササイズ）ひつじ書房
- 興水優・島田亜実（2009）『わかる中国語文法』大修館書店
- 木村英樹（2017）『中国語ははじめの一步』（新版）筑摩書房
- 木村裕章（2004）「中国語における自動詞と他動詞の分類について」『東亜大学紀要』（3），pp.37-51.
- 徐烈炯・劉丹青，木村裕章訳（2017）『主題の構造と機能』日中言語文化出版社
- 朱德熙，杉村博文・木村英樹訳（1995）『文法講義：朱德熙教授の中国語文法要説』白帝社
- 張佩茹（2021）『もっと知りたい台湾華語』白水社
- 沈家煊，古賀悠太郎・李夢迪訳（2018）「「処置文」をどう処置するか？—“把（BA）”構文の主性について—」『認知と中国語文法』日中言語文化出版社，pp.183-225.
- 林初梅・吉田真悟（2022）『台湾華語』（大阪大学外国語学部世界の言語シリーズ 18）大阪大学出版会
- 北京大学中国語文学系現代漢語教研室編，松岡栄志・古川裕訳（2004）『現代中国語総説』三省堂
- 守屋宏則（1995）『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店
- 李臨定，宮田一郎訳（1993）『中国語文法概論』光生館
- Greenberg, Joseph H. (1963) “Some universals of grammar with particular reference to the order of meaningful elements.” In Joseph H. Greenberg (ed.), *Universals of Language*. Cambridge MASS: MITpress.
- Li, Charles N & Sandra A. Thompson (1973a) “An explanation of word order change from SVO to SOV” *Foundations Language* 12, pp.201-214
- Li, Charles N & Sandra A. Thompson (1973b) “Historical change of word order: a case study of Chinese and its implication” In John M. Anderson & Charles Jones (eds.) *Historical Linguistics*
- Li, Charles N & Sandra A. Thompson (1975) “*The Semantic function of Word Order: A Case Study in Mandarin*” in Charles N. Li. (ed.)
- Li, Charles N & Sandra A. Thompson (1981) “*MANDARIN CHINESE A Functional Reference Grammar*” University of California Press.
- Matthews, Stephen (2006) “On Serial Verb Constructions in Cantonese” *Serial Verb Constructions: A Cross-linguistic Typology*, (ed.) by Aikihenvald, Alexandra Y. & Dixon, R. M. W. pp.69-87. Oxford & New York: Oxford University Press.
- Tai, H.-Y. James (1973) “Chinese as a SOV language. In C. Corum et al” *paper from the Nineth Reginal Meeting of Chicago Linguistic Society* Chicago: Chicago University Press.
- Wang, Pin (2025) “Chinese coverbal phrases and coverbs: a systemic function account” *Lingua*, 321, pp.1-23.
- 辞書類**
- 三省堂『言語学大辞典』（第6巻：述語編）1996，亀井孝・河野六郎・千野英一（編）
- 用例出典**
- 浅田次郎（2000）『鉄道員』（集英社文庫）集英社
- 浅田次郎，葉挺昭訳（2023）『鐵道員』圓神出版社
- 中央研究院『現代漢語平衡語料庫』<https://asbc.iis.sinica.edu.tw/>
- 夏目漱石（1986）「夢十夜」『夢十夜：他二編』（岩波文庫）岩波書店

夏目漱石, 周若珍訳 (2020) 『夏目漱石短篇小説集』 笛藤出版

夏目漱石, 楊明綺訳 (2021) 『夏目漱石短篇集 夢十夜與永日小品』 三友圖書

夏目漱石, 高詹燦訳 (2015) 『少爺與夢十夜』 好讀出版

Netflix 台湾映画 『瀑布』

宮澤賢治, 徐宇甄訳 (2023) 「喬凡尼的鐵道」 『銀河鐵道之夜』 八方出版

付記

本稿の執筆にあたり 4 名の台湾華語話者（台湾から北海道内にある大学に交換留学中の大学生と大学院生：1990 年代から 2000 年代生まれ）を対象にインフォーマント調査を実施した。4 名の台湾華語話者のうち 3 名の母方言が閩南語，1 名の母方言が阿美語である。調査は，2025 年 7 月上旬から 8 月下旬にかけて，札幌市内（北海道大学内・大通のカフェ）で個別に計 4 回に分けてアンケートとインタビューを行った。調査に協力いただいた 4 名の台湾人留学生に感謝申し上げる。